

令和6年9月26日研究公開報告

令和5・6年度大隅地区研究協力校研究公開

志布志市立森山小学校で

「へき地・小規模校教育（特別活動）」についての研究公開が開催されました。

令和6年9月26日（木）に、志布志市立森山小学校にて、大隅地区研究協力校「へき地・小規模校教育（特別活動）」の研究公開が行われました。森山小学校は、令和5年度から2年間、特別活動における学級活動を中心に研究を進めてきました。

研究主題は「主体的・対話的で深い学びの中で、『きっとできる！』という自信を育む好循環な授業づくり～自己効力感に焦点を当てたチーム支援【目標達成・協調学習・帰属意識】～」です。

「大好き自分」「大好きみんな」「大好き森山」

当日は、発達の段階に応じて目標を明確にした全校一斉学級活動や、様々な教育活動におけるリーダー・フォロワーの育成、他者との交流活動と環境の工夫などが研究内容として示されました。そして、公開授業で表出した児童の姿から研究の成果が伝わり、授業研究で協議が深まる素晴らしい研究公開となりました。



〔閉会のあいさつ〕
富吉 省子 校長先生

【研究発表】

研修係の大野教諭は、まず、他校との交流学习時に、自分から積極的に話すことができない児童の実態から、今回の研究主題を設定し、全職員で研究に取り組んできたことを説明されました。

次に、「きっとできる！」という自信を育み、自己効力感を高めるために令和5年度から年3回実施している全校一斉学級活動を中心に写真や動画を示しながら、分かりやすく説明されました。そして、児童の発言や振り返りの記録、アンケート結果から、児童が目指す姿に向けて変容し、児童自身も自覚していることが示されました。2年間の研究の意義や価値が伝わる素晴らしい研究発表となりました。



〔研究発表の様子〕

【授業研究】

授業研究では、前時の話合いで合意形成を図って決めた「どっちがすきかゲーム」の活動で高学年が中心となって進める姿や、高学年の姿をモデルにしながら中学年・低学年が自信をもって自分の考えや気持ちを発表する姿が話題になりました。また、児童と同じ目線で発表をうなずきながら聞き、理由を言えた児童とともに、理由を言えなかった児童も価値付けた姿等から教師の関わりが話題になりました。

さらに、児童同士による振り返りを共有する姿も話題になり、協議が深まりました。



〔授業研究の様子〕

【公開授業：全校一斉学級活動】

議題 「自分の気持ちを伝えられる活動を考えよう」

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

授業開始前、脇教諭がアイスブレイクの活動を行ったことで、児童や先生方に笑顔が溢れ、教室が楽しい雰囲気になりました。

授業が始まると高学年がリーダーシップを発揮して進め、6年児童が今回の活動を提案した理由を以下のように伝えました。「私は、これまで自分の意見をあまり言えませんでした。去年の3回目の『なかよしタイム（全校一斉学級活動）』で、自分の気持ちを伝えることができてすっきりしました。だから、もっと自分の気持ちを伝えられたらいいと思い、今回の活動を提案しました。」提案理由の説明後、齋藤教諭が、低・中・高学年の発達の段階に応じた目標を示し、児童が活動のねらいを明確に捉えることができました。そして、高学年児童が活動方法を低・中学年児童にも伝わるように実際に動いて見せながら丁寧に説明しました。

活動が始まると全児童が、お題に対して自分の考えや気持ちとその理由を伝え合う姿が見られました。児童や先生方が、うなずき、「そうだよね」、「なるほど」と声を出しながら温かい雰囲気の中で安心しながら自分の気持ちを伝え合う姿が見られました。

最後に、自分の取組を振り返り、「前より自分の考えを言えてよかった。」「友達の考えに理由があってよかった。」などの自他のよさに気付く姿があり、児童が自己効力感の向上を実感する授業となりました。



〔活動の様子〕



〔振り返りの様子〕